

鹿沼まるごと博物館

まるごと博物館はどんな博物館？

「鹿沼まるごと博物館」（以下、まるごと博物館）は、施設内に資料を展示する一般的な博物館とは異なり、市域全体を巨大な博物館として見立てる取り組みです。

市内各地の自然や史跡・考古資料・歴史資料・祭りや伝統の技などの「地域資源」を対象に博物館活動を行っています。

博物館活動は、調査・収集↓整理・保存↓研究↓活用のサイクルで成り立っています。どのような地域資源も存在するだけでは価値

が分からず、消滅する恐れがあります。そこで、学術的な手法に基づいて、秘められた価値を明らかにし、魅力的な地域づくり、人づくりに役立てていく必要があります。

まるごと博物館の基本理念は「市民とともに未来を創る博物館」です。そのため、市民の皆さんが博物館活動全体に関わることができ、市民が主体となって学び考え、探求し発見することの楽しさや喜びを実感できる博物館、それがまるごと博物館です。

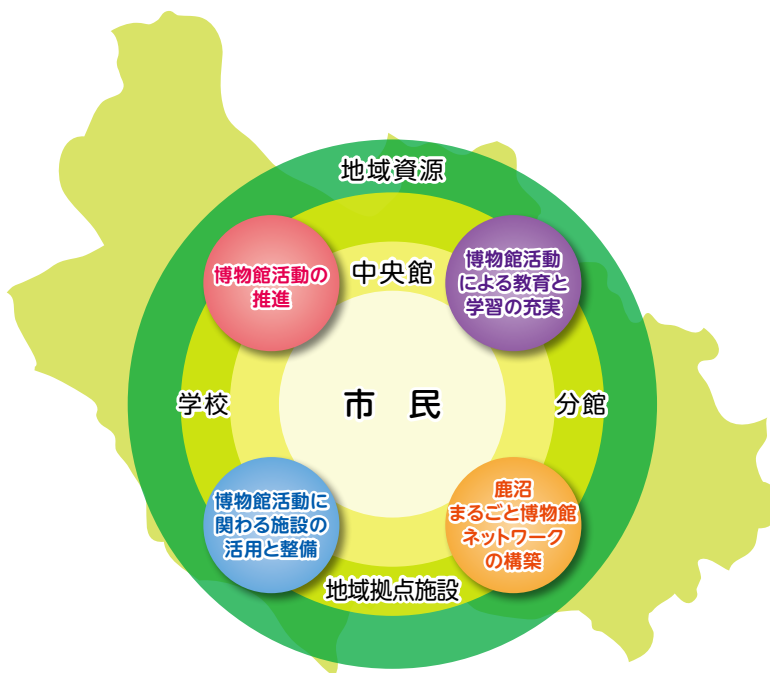
まるごと博物館の仕組み

まるごと博物館は、「中央館」を中心に活動を行っています。中央館は総合展示や館全体の企画運営を行います。現在は文化課がその機能を担っています。

また、各地に点在する既存の展示施設を「分館」に位置付け、中央館と連携した事業を推進します。さらに、各地に「地域拠点施設」を設定し、地域に根差した活動の拠点とします。



シンボルマーク(デザイン:菊池 雅美さん)
驚きや発見を表現しています。顔を模したマークの輪郭は「カヌマ」の文字になっています。



鹿沼まるごと博物館のイメージ

こんな活動をしています

まるごと博物館では、自然史資料、考古資料、古文書、昔の生活用品、歴史的公文書などさまざまな地域資源の調査・整理・研究を行っています。地域資源は、後世に受け継いでいくため、特性に合わせた保存を行います。

地域資源を守る — 調査・研究・保存 —



「小川山の六本杉(草久)」樹勢調査

調査・研究の成果を講座や企画展で公開しています。また、まるごと博物館のホームページ(市ホームページ内)では、「鹿沼デジタルアーカイブ(電子データでの記録)」として、貴重な資料を公開しており、いつでも誰でも閲覧することができます。

魅力を共有する — 公開・活用 —



ホームページで公開中
「鹿沼町実景」

まるごと博物館では、南押原地区において3年間のモデル地区事業を実施し、地域における博物館活動の実践と担い手の養成を行いました。昨年11月には、その成果を特別展「ちよっと昔の南押原」で発表しました。

つながる・ひろがる — ネットワークの構築 —



多くの人でにぎわった
モデル地区特別展

地域おこしの原点に



モデル地区事業に参加した
鈴木 節也 さん

南押原地区のモデル事業は、子どもには地域に対する気付きを与え、お年寄りには昔を思い起こすことで活力を与えることができ、多くの人にふるさとに関心を持ってもらうきっかけとなりました。

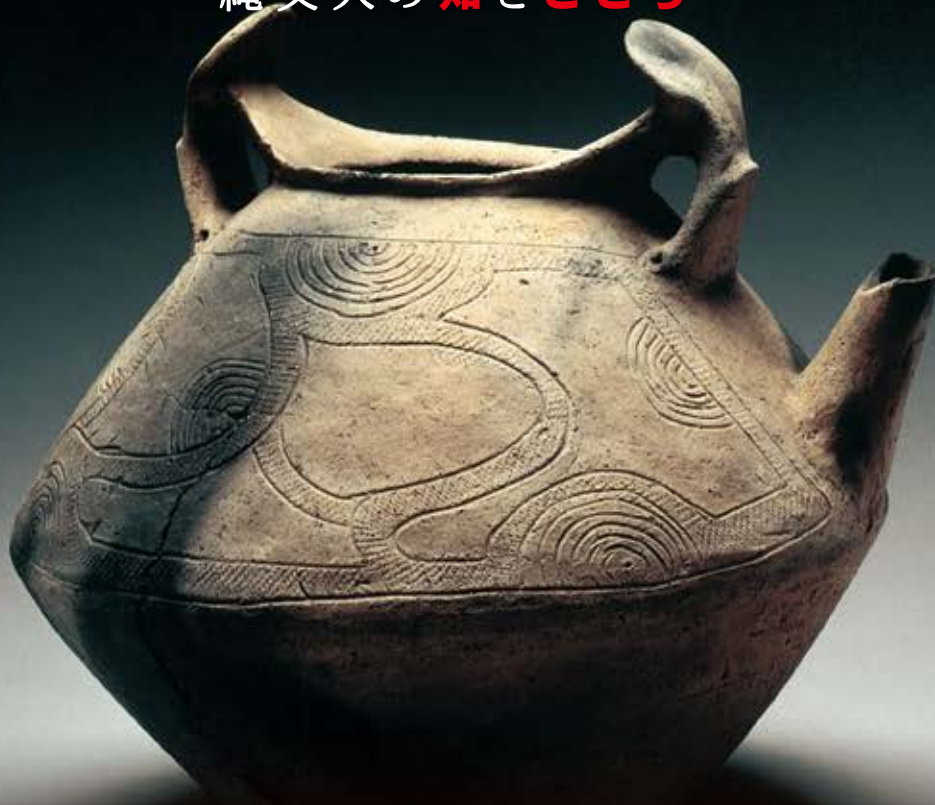
3年間の活動を通じて、参加者は地域について今まで以上の知識を持つことができました。今後は参加者たちが地域の中で知識を広めていく担い手になると考えています。

まるごと博物館は、地域から活動を立ち上げることに意義があります。地域に根差した活動をするこことで、これまで博物館活動に関心のなかった人たちを巻き込み、さらに郷土愛や地域の一体感を育むことにもつながります。今は南押原という点に過ぎませんが、活動を継続して点から面へ、市域全体への展開に期待したいと思います。

明神前のモノ語り

みょうじんまえ

— 縄文人の知とこころ —



明神前遺跡から出土した注口土器。儀礼などで使われたと考えられます。高さは31cmで同形では関東地方で2番目の大きさです。

縄文人の知とこころ

2月18日まで、市民文化センターで開催したまるごと博物館第4回企画展では、上殿町の明神前遺跡を中心に、鹿沼の縄文時代を取り上げました。

明神前遺跡は、押原神社の南一帯に位置する小字「明神前」から発見された縄文時代から平安時代の遺跡です。今回の展示では「水辺のモノ語り〜自然との共生〜」、「祈りのモノ語り〜自然への畏怖〜」の2コーナーで縄文人の知恵と信仰を、「古代のモノ語り〜ムラ再び〜」で縄文時代以降に新たに明神前に住み着いた人々の暮らしを紹介しました。会場には、大きなものから小さなものまで115種400点を超える土器や土偶、石棒や埋甕などを展示し、期間中には、大田原市なす風土記の丘湯津上資料館館長の上野修一氏を招いた記念講演会や、縄文土器の拓本（※1）を使用したしおり作り、アンギン編み（※2）コースター作りなど、縄文人の知とこころを体感するさまざまなイベントを催しました。



ハート形土偶

本来はハートに近い形の顔が付いていた、腹部が大きく膨らんだ妊婦像です。生命を生み出す女性の神秘の力にあやかり、命の誕生・豊穡を祈ったと考えられます。



木の実などを水に漬けておくために使われた水さらし場の中心となる木組遺構(※3)。水に強いクリ材を使っており、湧き水を導水し、常時清潔な水が溜まるように工夫されているなど、食料を加工するための縄文人の知が詰まっています。左下は底に敷かれた網代(※4)です。

縄文時代研究を進展させた!?
水さらし場遺構

鹿沼署西交差点付近に通称「オイノ」弁天とよばれる泉があります。発掘調査でこの泉を利用した「縄文時代の台所」とされる木の水さらし場が見つかりました。水さらし場は全国に二十数件発掘されていますが、水が汚れないようにヨシで作った網代が底に敷かれた木組遺構は全国初として注目されました。さらに周辺からはさまざまな土器や石器の他、腐ることなく残された木製品や漆製品、縄文人の食べていたトチの実なども発見されています。

明神前遺跡から見つかった遺構と遺物は、縄文時代の木の実加工の様子を明らかにするとともに、縄文人の知恵が現代につながっていることを物語っています。

- (※1)拓本
器具などに紙をあて、そこに刻まれている模様等を墨で写し取ったもの。
- (※2)アンギン編み
縄文時代から続く布等の編み方。すだれや俵などに用いられる。
- (※3)木組遺構
湧き水や川などの流水を利用するために、木を組んで作られた施設の痕跡。
- (※4)網代
竹やヒノキ、ヨシなどを薄く細長くし、縦横または斜めに編んだもの。

先端を湧水点に向けて埋置された緑色の石棒。豊かな湧水を祈ったと考えられます。



◀魅力的な資料が勢ぞろい。多くの来場者でにぎわいました。



会期延長決定!

好評につき本企画展の延長が決定しました。皆さまのご来場をお待ちしております。

【と き】 3月12日(火)

～31日(日)

【と ころ】 文化活動交流館
郷土資料展示室